

日常生活の流れにそって、安定して行動できる子

細川 彰夫

自閉症のK児にはいろいろなこだわりがある。K児のこだわりは、生活の中で今は何をしたらよいかわからない時や次に何をしたらよいかわからない時に起りやすい。

そこで、1日の生活の流れにそって、見通しをもって行動できればこれらのこだわりを改善できるのではないかと考えた。ただ、K児の場合はその実態からみて、ひとつひとつの活動、たとえば給食の用意という活動についての見通しを持たせることから指導していくことにした。

1 実態

(1) 障害名

- ・自閉症……昭和59年児童相談所にて診断
- ・身体障害 なし

(2) 成育歴

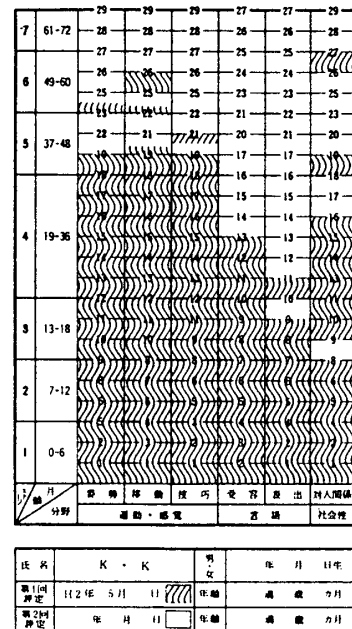
- ・昭和57年1月1日生（8歳）。男子。第1子。
- ・現在 小学部3年生
- ・正常分娩。体重、発歯、歩行開始とも標準的。
- ・1歳7ヶ月の時、高熱でひきつけをおこす。
その後、声かけに反応しなくなる。
- ・K保育園（1年）、W学園（2年）にて保育。
- ・昭和62年本校入学。

(3) 発達検査等における実態

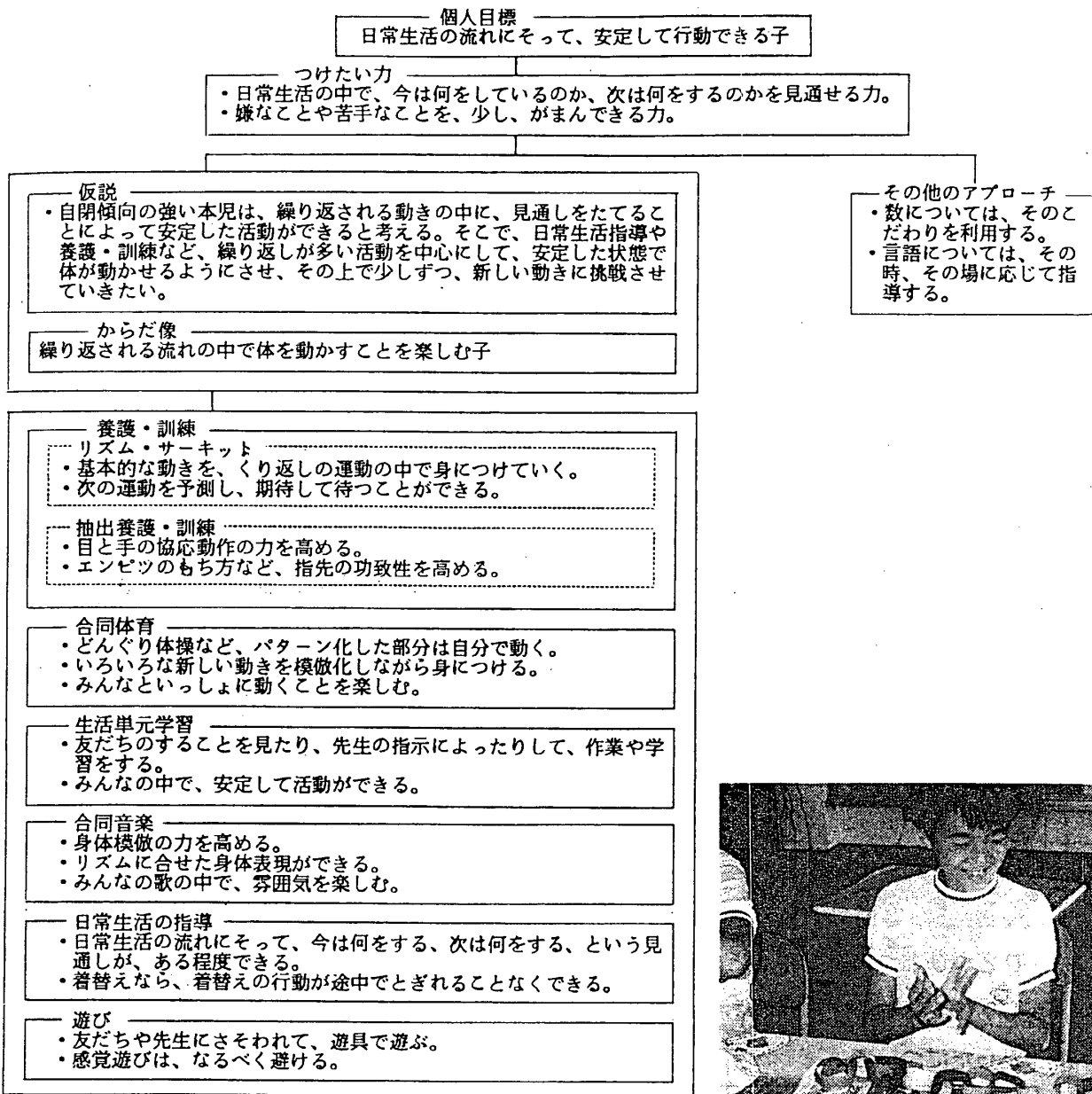
- ・MEPA……右図（H2. 5実施）言語の発達が遅れている。特に表出言語の発達が遅れている。社会性では日常生活のなかでくり返されている項目（着替えなど）はできるが、人との関係が深いものはできていない。運動面での機能的な障害はない。

(4) その他の実態

- ・朝の活動ができていない。ランドセルをせおったまま、教室をウロウロしている。雨ガッパを着たまま、積み木をならべている。朝の混乱が、そのまま一日の生活の混乱へとひきつがれていくような気がしてならない。
- ・初めての人にも平気で近づいていく。その時、手をとって要求行動（クレーン現象）をすることが多い。これは人を便利な道具として見ていて、普通の信頼関係を求めているとは思えない。



2 個人目標



3 指導の方針

- (1) 1日の生活のリズムにのって安定した生活が送れるようにさせる。特に、朝の活動、養護・訓練、給食指導など毎日くり返す活動を重視する。これらの活動が一つのまとまりのある活動として、なるべく少ない指示で見通しをもって行動できるようにさせたい。
- (2) 体力、特に姿勢の維持ができるようにする。着席行動の弱さは、ここにも原因があると思われる。養護・訓練、体育、遊びなどの活動を通してしっかりしたからだを育てていきたい。
- (3) できるだけ、こだわりを排除し、情緒の安定をはかる。本児の場合、ほんの小さなことでも泣いたり、すわりこんだりしてしまう。こだわりの排除とともに、いやなことや嫌いなことに対する耐性づくりも大きな課題である。

4 指導の実際

(1) 生活リズムの確立について

	実 態	手 だ て	変 容
朝の活動	<ul style="list-style-type: none"> ・前の教室や図書室への寄り道をする ・教室へ来ても、ランドセルを背負ったまま、つみ木をする。 ・着替えをしないうで遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が出迎える。 ・つみ木などこだわっているものを隠す。 ・行動を、ひとつひとつ順番に指導する。(ランドセルをおろす。連絡帳をかごに入れる。給食袋をロッカーに入れる等) ・はじめはいっしょに行動する。 ・つぎに声かけを次々にし、行動をとぎれさせない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・誰も出迎えにいかなくても教室に来られることが多くなった。 ・こだわっているものがあったても、着替えがすむまでは遊ばない。 ・声かけを、時々すればできる。 ・着替えは、「着替えよう」の指示で、ほとんど自分でする。
給食	<ul style="list-style-type: none"> ・トイレからまっすぐ教室に帰れない。 ・指示されて、スモックを着る。 ・当番のミルクをゆっくりとくばる。 ・調理室で遊んでから教室へ帰る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・きちんと行動ができあがっている子どもとペアを組ませ、その子にリードさせる。また、その子を模倣させる。 ・トイレから出た時に、次の行動を指示しておく。「つぎは、教室に帰って、スモックを着よう」 ・ミルクのバックを一度にたくさんもたせ、早く配ろうという気にさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ペアがあってもなくても、トイレに行ける。 ・トイレの次はスモックを着るという行動がとれだした。 ・自分からは、ミルクバックをたくさんもつことができない。多少、早く配れるようになったが、手助けが必要である。 ・調理室へ行くことがあっても、ほとんど一人で帰れる。
養護・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・とび出しがあったり、順番に待つ意識が弱かったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・とにかく、絶対に許容しない。 ・何かをしたくて、とび出すのではなく、集中する意識が弱くなって行動してしまうと解釈する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんど、とび出しはしないが、姿勢のくずれや、窓ぎわへの逃避が時に見られる。

※ ひとつひとつの行動のまとまりはかなりついてきている。指示なしで、今は給食の用意の時からトイレにいて、手をあらって、スモックを着て、次に…というようになってほしい。

(2) からだについて

	実 態	手 だ て	変 容
姿勢	<ul style="list-style-type: none"> ・正座が数秒しかできない。 ・椅子に腰かけていても、姿勢がくずれやすい。 ・立っている時にそばに人が寄ると、その人に頼りきって自分で立とうとしなくなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・帰りの会の前などに正座をする時間を作り、みんなをモデルにし、それを模倣させる。 ・作業をしていれば、姿勢はくずれることが少ない。 ・後ろに立つとまずだめ、前に立って指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなと、おなじかそれ以上の正座ができる。個別学習で集中できない時は、椅子から正座に切り替えると有効であった。 ・作業の内容がわかっていたら、集中してできる。 ・その日の調子によってきちんとできたり、そうでなかったりする。
養護・訓練	<ul style="list-style-type: none"> ・かかとをあげて「あひる歩き」ができない。 ・「横まわり」のスピードがおそい。 ・「ぶらんこ」のくすぐりが大好きである。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒で体重を支える。 ・3人でいっしょにまわらせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・棒なしで、バランスをとって歩ける。 ・すこし速くまわれるようになり、姿勢も良くなった。 ・期待して待つという姿勢が身につけてきた。

体育	<ul style="list-style-type: none"> 汗をかくまでの運動をしない。 競争の意識がない。 基礎的な力や、技巧の力はある。 水がこわい。 	<ul style="list-style-type: none"> スピードよりも、持続的な運動量を増やしていく。 まだ、その段階ではない。 模倣の力を利用して、できることをふやす。 水に対する緊張感を利用して、指示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> しっかり汗をかくまでにはなっていないが、運動量は増えている。 ダンス、体操などしっかり模倣している。 大プールでの指示がよく聞け、水にもぐれるようになった。
遊び	<ul style="list-style-type: none"> 自由にさせておくと何もしないでうずくまっただままでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> いっしょに遊んだり、声かけをしたり、他の子どもに働きかけをさせたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 他からの働きかけがあればいろいろな遊具で遊べるが、一人だと、じっとしてしまふことが多い。

※ 姿勢がよくなってきた。歩く力や持久力もついてきている。ただし、やることがわからないと、動けなかったり、感覚遊びをしてしまう。

(3) こだわりについて

	表 態	手 だ て	変 容
つみ木	<ul style="list-style-type: none"> つみ木を箱にならべる時、ならべ方にこだわりがあって、じゃまされたり、うまくならべられなかったりするとパニックになる。 	<ul style="list-style-type: none"> 棚の上上げたり、ロッカーの中にしめたり、目のつかない所におくしかなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 一時はものすごく、こだわっていたのに、今はそれほどでもない。つみ木がだしてあっても、あまり気にしないで学習ができる。
紙芝居	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居の紙をバラバラとめくって遊ぶ。これもならべかたにこだわりがあって、バスの時間になっても気にいるまでならべ替えようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居についでいる番号にこだわっていると予想し、いっしょに番号順にならべる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一応、番号順になっていることで満足する。でも、ままバラバラにしてやり直すことが多い。
図書室	<ul style="list-style-type: none"> ちょっとした時間のすき間に図書室に言ってしまう。 図書室ではシリーズになった本や紙芝居を出してバラバラにして遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間のすき間をなるべく作らない。今なにをしていいかわからない時にとび出してしまふことがもっとも多い。 本や紙芝居の番号にこだわっている。いっしょにならべてきちんと整理させる。 	<ul style="list-style-type: none"> しらない間に出ていることが少なくなった。様子を見ながら、出ていく。 一度きちんとそろえてしまえば、しばらくは図書室行きがなくなる。

※ こだわりがすべてなくなるとは考えていない。こだわりが阻止された時どの程度平静でいられるかが問題である。

5 今後の課題

本年度は、K児の情緒の安定のため、生活の流れにそって見通しを持った行動がとれることを目標として指導してきた。そのうちのいくつか、たとえば、朝の活動や給食の用意などは、いくぶんなりとも改善されてきている。

ただ、その性格の弱さは残されており、担任やまわり大人の態度によって行動が変化しやすい。担任とか、ある人の前だけでできる行動では、あまり意味を持たない。いつでも、誰とでも安定した行動をとれることを目指して、今後の指導に当たっていきたい。